

宮城県感染症発生動向調査情報

— 2017.8.28～2017.9.3—第35週—

平成29年9月7日発行

1. 集計

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾 病	保 健 所							仙 台 市 患者数	宮 城 県 (含 む 仙 台 市)					
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼		患者数	累計	第32週	第33週	第34週	第35週
水痘			1 0.20				1 0.50	3 0.11	5 0.08	786				
流行性耳下腺炎	1 0.20	2 0.20					1 0.50		4 0.07	452				
百日咳									0 0.00	0				
感染性胃腸炎	17 3.40	27 2.70	13 2.60	10 5.00	9 3.00	3 0.60		123 4.56	202 3.42	10,366	◎	◎	◎	◎
手足口病	91 18.2	88 8.8	65 13.00	20 10	36 12	114 22.8	37 18.5	371 13.74	822 13.93	4,449	◎	◎	◎	◎
伝染性紅斑	4 0.8							5 0.19	9 0.15	151				
突発性発しん	4 0.80	2 0.20	4 0.80	2 1.00	2 0.67	2 0.40		15 0.56	31 0.53	1,168	○	レ		○
ヘルパンギーナ	6 1.2	25 2.5	13 2.60	3 1.50	22 7.33	14 2.80		28 1.04	111 1.88	702	◎	◎	◎	◎
インフルエンザ		1 0.07					1 0.13	18 0.41	20 0.21	27,103				
咽頭結膜熱		1 0.10	1 0.20					8 0.30	10 0.17	1,355	レ			
流行性角結膜炎		1 0.33					2 2.00	2 0.33	5 0.42	103				
急性出血性結膜炎									0 0.00	0				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6 1.20	21 2.10	3 0.60	1 0.50	1 0.33	20 4.00		22 0.81	74 1.25	5,425	○	レ	○	◎
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)				1 1.00					1 0.08	1				
無菌性髄膜炎									0 0.00	0				
マイコプラズマ肺炎				1 1.00		2 2.00	2 2.00	2 0.40	7 0.58	176				
クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0 0.00	0				
RSウイルス感染症	33 6.60	24 2.40	16 3.20	9 4.50	6 2.00	11 2.20	10 5.00	129 4.78	238 4.03	1,447	◎	◎	◎	◎
感染性胃腸炎(ロタウイルス)									0 0.00	50				
拡 張 疾 病	マイコプラズマ肺炎(小児科)		5		4		1		5	◎: 流行の変化について、今後の情報に十分注意 ○: 発生または流行について、今後の情報に留意 レ: 発生が少なくなっている傾向				
	川崎病													
	不明発しん症								5					

※今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 0例

2. 全数報告疾病

1類感染症: 報告なし

2類感染症: 結核
栗原管内 男性1名
仙台管内 男性3名、女性1名

3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症(O157)
塩釜管内 女性1名
栗原管内 女性1名
仙台管内 男性1名
腸管出血性大腸菌感染症(O26)
大崎管内 男児1名*

4類感染症: レジオネラ症
仙台管内 男性3名

5類感染症: 梅毒
仙台管内 男性1名
播種性クリプトコックス症
石巻管内 女性1名
破傷風
石巻管内 女性1名

※男児は6歳未満

3. 宮城県感染症対策委員会情報解析部会

[手足口病]
仙南、塩釜、大崎、栗原、登米、石巻、気仙沼、
仙台管内で警報継続中

[ヘルパンギーナ]
登米管内で警報継続中

【病原体検出情報】

～宮城県保健環境センター～

感染性腸炎患者より
塩釜管内 第31週採取分 サホウイルス 1件
第34週採取分 *Campylobacter jejuni* 1件

～仙台医療センターウイルスセンター～

	確 定	中 間 報 告	
	第32週採取分 (8.7～8.13)	第33週採取分 (8.14～8.20)	第34週採取分 (8.21～8.27)
RSウイルス	3件	6件	8件
ヒトメタニューモウイルス	1件	0件	0件
アデノウイルス	1件	0件	0件
パラインフルエンザウイルス(2型)	1件	0件	0件
パラインフルエンザウイルス(3型)	3件	0件	2件

* RSウイルスの分離が多い状態が続いています。

4. 今週のコメント

【RSウイルス感染症】

RSウイルスにより引き起こされる急性の呼吸器感染症で、主な症状は発熱や鼻水です。患者の咳、鼻水等からの飛沫を吸い込んだり、ウイルスが付いたものを触ることにより感染します。特に乳幼児に多くみられ、生後6ヶ月未満の乳児では肺炎などを起こし重症化しやすいことから注意が必要です。通常は秋から冬を中心に流行しますが、今年は、過去5年と比較して、全国的に最も早い時期から患者報告数が増加しています。県内でも患者報告数の多い状態が続いており、今後も注意が必要です。手洗い、うがいなどの予防対策に努めてください。

【手足口病】

小児(5歳以下)に多く発生するウイルス性の感染症で、手や足、口の中などに発疹が現れます。県内では、先週に引き続き、全保健所管内で警報開始基準値である5人を大幅に超えており、流行が継続しています。石鹸と流水による手洗いの徹底、乳幼児がよく触れる場所やおもちゃの消毒など、感染予防対策に努めてください。

宮城県保健環境センター(宮城県結核・感染症情報センター)

電話 022-257-7228 FAX 022-256-3362

HPアドレス: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hokans//kansen-center.html>

宮城県定点週報告対象疾病の推移

